

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-004

PDCA	事務事業名	ごみ焼却処理施設補修事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター 管理担当	担当	中村	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	日々搬入される半田市内で発生した可燃ごみを安全・安定的に焼却処理するため、ごみ焼却処理施設の老朽化した設備の整備補修を行う。					
	目的を達成するための手段・活動内容	日々の運転時の維持管理点検及び各種機器点検整備により、劣化、補修箇所の把握に努め、計画的な補修を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみ焼却処理施設補修か所	1	1	1	か所	
		②焼却施設搬入量	33,436	33,627	33,703	焼却量(t)	
		③					
		事業費	89,554	89,737	65,811	千円	
		人件費	1,586	1,249	1,242	千円	
		総事業費	91,140	90,986	67,053	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①ごみ焼却処理1トン当たりの補修費	2.7	2.7	2.0	千円		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①施設設備の機械的、電気的故障による処理停止件数	実績値	0	0	0	件
			目標値	0	0	0	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ —	⑤成果向上の余地 ない	※対象・手段の変更			
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 —			
	事業の評価・課題	B 焼却施設の補修整備を実施し、可燃ごみを適正に焼却処理することができた。知多南部広域環境組合による新施設が稼働する令和4年4月までの間、本施設でごみ焼却処理を行う必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持 新施設が稼働するまでの間は、故障等により施設が停止することのないよう、補修計画に基づいた補修を行い、適切にごみ焼却処理を行う。				
令和2年度の目標		成果指標	目標値		単位		
		①施設設備の機械的、電気的故障による処理停止件数	0		件		